

▼東海

テニス活動便り

東海民放クラブ テニス部幹事

荒川 戦一(CBC)

平均年齢80歳を超えても、テニスコートに立てるのは幸せである。

それぞれが体に故障を抱えてはいても、そこを上手く折り合い

をつけながら継続するのが一番である。高齢になり、それぞれ事情があつて、1度止めてしまうと復

帰するには相当な根気と時間が必要で、若い時から一緒にプレイ

をしていた仲間も数人がコートを去っている。10年以上前には十数

名が2面を借りて走り回っていたのが、今や何名来るのかが大問題。

1面、2時間のコートを予約し、1試合6ゲーム先取が基本だが、4

ゲーム先取も厳しい時は4ゲームで終了。これを3〜4試合。

ダブルスなので4名は確保したいが、当日キャンセルの人もあり、

やむを得ず3人変則マッチを行う。これがまた相当ハードで1人側は

シングルスコートを守り、攻撃は2人いるダブルスコートへ。2人側は

ダブルスコートを守り、攻撃時はシングルスコートとなる。1ゲーム

ずつ交代で、ダブルス時にナイスショットを決めたと思いきやシングルスコート外でアウト。その都度コート確認をしないと勘違いをする。

スポーツの中でもテニスは、より頭を使うともいわれるので高齢

者向きかも？ 気力、体力、視力、技術、経験、さらにあくなき向上心が必要条件である。

先日、レギュラーメンバーとプレイをした際、調子は悪くなかったのにイーजीミスをする。相手の

動きも、どのコースに返球されるのかも読めて、的確に打ったつもりがネットに引つかつたりオーバ

ーをする。この日はいつも楽勝の相手にも負ける。何故だ。プレイ

中何度も考えたが分からない。これがスランプか、いやそれほどのレ

ベルでもないし…。

帰宅途中、これまでと何が違うのか、あれこれ思いめぐらすと

分かった!!

冬は手袋をしてプレイをする時もあるが、この日は特に寒く、

まず薄手の布製の手袋をして、その上に革製の手袋をしていた。こ

れが微妙に影響していた。

よくプロ野球の選手がバットをオーダーする際、グリップの太さ

をミリ単位で指定するが、納得した。テニスラケットも購入時に数本を握り、素振りをして手にしつくりくるかを確かめる。

また、自分に合うように薄いグリップテープを巻いたり、全く新

しいテープを巻き直したり、フォア・バックの握りの位置も長め、短めと変えることで打ち方を変え

る。

試合前のウォーミングアップでは、ただ漫然と打ち合うだけでなく、試合を想定して相手の弱点

を見つれたり決め球を試したりする。と言つても長年プレイをし

ている仲間ではお互い知り尽くしているので工夫が必要。これが上

手くいくとより楽しくなる。研究熱心なFさんは「サーブをより強

く」と打ち方を変えたものの、最初は逆にこれまでより弱いサーブ

になつて軽くレシーブされ惨敗が続く。それでもめげずに続け、よ

うやく納得がゆくまでに3年の時が流れた。

若い時から身に着けた自分のプレイを変えるのは勇気がある。

当然、新たなプレイが完成するの

か否か分からず、それまではレベルが落ち、元に戻す誘惑にも打

ち勝つ精神力がいる。Fさんに拍手だ。

毎週1〜2回、愛知学院大学傍の口論義(こうろぎ)コートで2時間、隣のコートでリズムカルに小気味よく打ち合う音にめげず、不協和音を交えてプレイをしている。

テニスには新たな発見がまだまだある。奥が深い。その未知なる奥をもっと見たいし確認もしたい。老け込んではいられない。

